

ベンチャー支援に関する取組について

平成28年4月

経済産業省

日本再興戦略 改訂2015（平成27年6月30日）で記載された施策

①シリコンバレーと日本の架け橋プロジェクト

優れた技術を有する国内の企業や人材を米国シリコンバレーに派遣し、現地のベンチャー支援機関等と連携しつつ、提携先や投資獲得に向けた活動を支援する。

②グローバルなベンチャーエコシステムとの連動

「シリコンバレーと日本の架け橋プロジェクト」等とも連携しつつ、2020年に大規模な「グローバル・ベンチャーサミット（仮称）」を開催する。それに向けて、ベンチャー関連施策を有機的に統合・連携し、2020年までのロードマップとなる「ベンチャー・チャレンジ2020」を策定する。

③デジタル・ネットワーク時代を支えるグローバル・ベンチャーの育成、地方創生に資するIT利活用の促進

「未踏IT人材発掘・育成事業」について、育成支援の対象をソフトウェア開発のみならず、IoT分野での製品開発やビジネスモデルの開発にまで拡大するなど、起業につながる支援方式を新たに導入する。地方の起業家人材発掘・展開等を通じた、ベンチャー・中小企業等への支援を実施する。

④我が国の強みを活かした研究開発型ベンチャーの育成とエコシステム構築

研究開発型ベンチャーの育成とエコシステム構築を図るため、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構が国内外のベンチャー・ファンド等（アクセラレータ）を認定し、当該ファンド等が支援するベンチャー企業に提携先や投資家等とのマッチング等の支援を行う。

シリコンバレーと日本の架け橋プロジェクト

- シリコンバレーと日本の起業家・企業をつなぐことで、グローバルに通用するイノベーションを持続的に創造する仕組みを形成し、成長企業の創出と地方創生に貢献する。
- 人材・企業・機会の観点からシリコンバレーの資源を活かすプログラムを実施。

企業

高い技術力を持つ中小・中堅企業・ベンチャー企業（大企業技術のスピノフを含む）が、ノウハウやチャネル等の不足によって、十分に世界展開出来ていない。

日本企業アクセラレーションプロジェクト

ロボット、バイオ、医療等の中小・中堅企業・ベンチャー企業を派遣
（2016年度から5年で200社を派遣予定）

人材

世界に通用する新規事業を生み出すノウハウを持つ人材（大企業内の新事業担当者や起業家等）の層が薄い。

グローバル起業家等育成プログラム （始動 Next Innovator 2015）

大企業内の新事業担当者や起業家等を派遣
（120人程度を国内研修、20人を10～11月に派遣）

機会

日米の大企業、中堅・中小企業、ベンチャー企業、VC等間の交流の機会が不足している。

日米双方の大規模交流イベント

東京とシリコンバレー双方でビジネスマッチングイベントやシンポジウムを開催

10/26,27 イノベーションリーダーズサミット@東京
10/30,31 VCカンファレンス@スタンフォード大学 等

人材の架け橋 (始動 Next Innovator 2015)



STEP1 公募

367名

【2015年5月1日（金）～5月31日（日）】

社会課題の解決やグローバル市場への進出など、目線の高い事業ビジョンを持ち、次世代のイノベーションを担おうとする人材を、起業家、大企業の新事業担当者、VC、自治体の新事業施策の企画担当者などから広く公募。

※当初100名予定のところ、有望な人材が多く120名に

STEP2 国内研修

122名

【2015年6月19日（金）～9月26日（土） 計7回@虎ノ門ヒルズ】

経験豊富な実務家が講師・サポーターとして参加し、事業や組織の改革を通じてイノベーションを起こすのに必要な手法・ノウハウを講義。

※参加者の熱意により、始動CAFÉ等のスピンオフ企画、自主的な地方研修等が開催

※プログラム終了後も、参加者同士のネットワークが継続し、オープンイノベーションの取組が加速化



STEP3 シリコンバレー派遣

20名

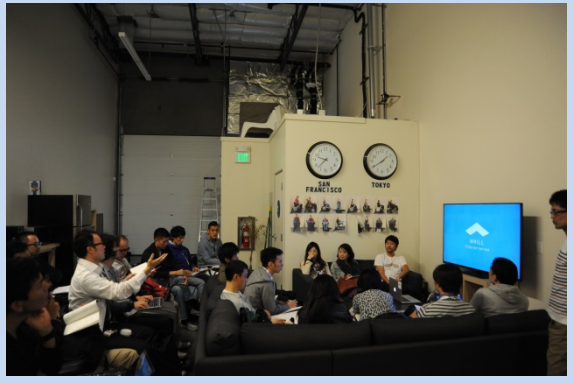
【2015年10月25日（日）～11月8日（日）@シリコンバレー】

国内研修参加者から20名を選抜し、自らが立案・策定した事業計画を、シリコンバレーのメンターや起業家にプレゼン。国内で得たスキルを実践し、イノベーターとしてのマインドセットを体得。



始動 Next Innovator 2015 活動の成果

シリコンバレーでの活動の様子



日本人起業家を訪問 (Whill社CEO杉江氏)



米国ベンチャー企業 (Salesforce社共同創業者Parker Harris氏) を訪問



スタンフォード大学 (アジア太平洋研究所 榎田先生) を訪問

参加者の声：大企業内の新事業担当者



日本電気株式会社
ビジネスイノベーション
統括ユニット事業イノ
ベーション戦略本部
目黒 友佳

「始動」での最大の収穫は、イノベーター育成の手法とノウハウ。社内に持ち帰って実践したい学びばかりだった。
今後は日本と海外拠点の連携も含め、スピード感ある組織形成を進めたい。

- ・部門横断組織に所属し、新事業開発とイノベーター支援を担当
- ・リング型端末の事業を企画

参加者が受けた学び・刺激を日本全体に浸透させていく予定

- 既に、以下の波及効果を創出
 - 社内外でビジネスプランの認知が高まったことで、協業の機会が拡大
 - 参加者の取材記事 (31件) や講演 (8件) によって、プログラムの経験が日本全体に広く共有・認知
 - 大企業からの参加者は、社内にて役員に報告、5社において、新事業創造のためのプロセスが構築された

参加者の声：ベンチャー企業



エルピクセル株式会社
代表取締役
島原佑基

今回のプログラムで衝撃を受けたのは、より「破壊的なイノベーション」を求められたこと。
アドバイスを受け、市場と技術を再定義し、新たに事業プランを考案できた。

- ・1年半前に東大アントレプレナープラザで起業
- ・AI画像解析技術を活用した事業 (人工知能によるがん診断ソフトウェア) を企画

機会の架け橋（日米交流イベントの開催）

新事業創造カンファレンス（10月27日開催） @東京（虎ノ門ヒルズ）

- ✓ ベンチャー創造協議会とオープンイノベーション協議会の共催で、シリコンバレーの活用及びオープンイノベーションの促進をテーマにパネルディスカッション・講演を開催
- ✓ シリコンバレー関連セッションでは、当地を代表するV Cや起業家等を招致
- ✓ 同時開催したビジネスマッチングイベント（イノベーションリーダーズサミット）との相乗効果により、参加者間の交流・ネットワーキングを促進

参加者総数 出展ベンチャー数 商談参加大手企業数

4,000人 500社 120社

商談件数 対前年比

1,816件 +23%



日米V Cカンファレンス（10月30,31日開催） @シリコンバレー（スタンフォード大学）

- ✓ シリコンバレーと日本のV Cの交流イベントを開催
- ✓ 日本のV C等に対して、米国の一流の投資ノウハウやイノベーションの手法を学ぶ機会を提供
- ✓ 米国のV C等に対して、日本のベンチャー市場や投資機会をP R

※米国V Cからは、「日本について学ぶ良い機会となった」「日本のV Cと今後も関係を続けたい」と賞賛の声

日本側参加者数 300人 米国側参加者数 150人



Scott Kupor氏 (Andreesen Horowitz) と WIL 伊佐山元氏 (WIL) の対談の様子



Andrew Braccia氏 (Accel Partners) によるキーノートスピーチ

ITを駆使したグローバルベンチャー育成に向けた取組

卓越したITの才能を持つ人材を発掘・育成する「未踏IT人材発掘・育成事業」を強化。

1. IoT分野でのビジネスモデル開発への挑戦を支援

先進的なIoTのモデル事業を創出するため、昨年10月に「IoT推進ラボ」を設立。これまでの未踏事業のノウハウを活かし、個別プロジェクトへの資金支援やメンタリングをラボにおいて開始。またストックオプション等の金融的手法による支援方法についても調査を実施、今後、試行導入予定。

2. 未踏事業と、地方のスタートアップアクセラレータとの連携を深化

未踏IT人材と地方のニーズをマッチングし、起業を促進するため、イベント等の相互案内や、情報交換の機会を作る相互協力協定を締結。

- ・ 会津IT産業振興協議会（会津若松市）
- ・ 公益財団法人大阪市都市型産業振興センター（大阪市）
- ・ 一般社団法人Startup Go!Go!（福岡市）



3. 未踏IT人材の産業界における更なる活躍に向け「未踏会議」を開催

シンポジウムを開催し、実際に産業界で活躍している未踏IT人材によるパネルディスカッション等を実施。また、ベンチャー企業と未踏IT人材によるビジネスマッチングを実施。



(参考) 未踏卒業生によるグローバルベンチャーの事例

- IPAにおいて、2000年の事業開始以降、のべ1650人の未踏IT人材を発掘・育成。
- 1650人のうち、約160人が事業化を行い、産業界の第一線で活躍している。



西川 徹氏

2005年度未踏採択
(株)プリファード
インフラストラクチャー
代表取締役

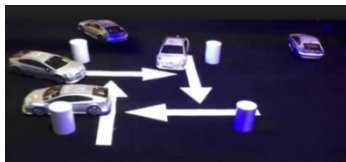
ビッグデータをリアルタイムに処理 する世界最高水準の技術を開発

リアルタイムのビッグデータ分析技術
において、世界最高水準の技術を開発し、
機器の故障予測等に利用される。

自動運転等の実現に向けた、 人工知能の研究開発に着手

小売・広告、自動車、安全・防犯、公共
交通機関等の利用を想定し、各事業者と
共同開発や事業提携を進めるとしている。

自動運転車の共同開発でトヨタ自動車
と提携し、昨年12月に出資も決定。



落合 陽一氏

2009年度未踏採択
ジセカイ(株)ファウンダー

メディアアート作品の研究、制作に より「現代の魔法使い」と呼ばれる

「デジタルとアナログの区別をなくす」を
世界観に、シャボン溶液膜で作られたディス
プレイや、超音波によって様々なものを
空中に浮かべ三次元的に動かす等の
研究、制作を行っている。

こうした取組は、BBC, CNN, Discovery,
ロイター, デイリーメール紙, ロシア国営
放送, フランス国営放送などで特集される
など、世界中の注目を集めている。

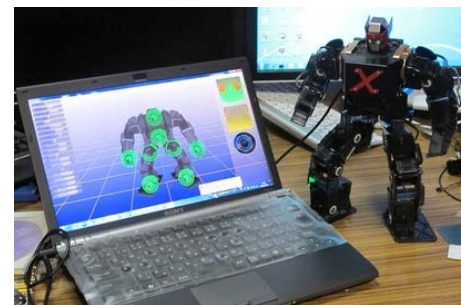


吉崎 航氏

2009年度未踏採択
(株)V-Sido代表

人型ロボット用のOSとも言える 制御ソフトウェア「V-Sido」を開発

従来のロボット制御ソフトウェアは、
あらかじめロボットに覚えさせた動きを
再生するものがほとんどであった中、
産業用の巨大ロボットからおもちゃに
至るまで、マウスやタブレットでCGを動か
すだけで、全身の動きを生成し、リアル
タイムにロボットを動かすことが可能に。



ベンチャー・キャピタル等と連動した研究開発型ベンチャー支援の取組

- 平成27年度より、グローバルなネットワークを持ち、シード期の研究開発型ベンチャーをハンズオン支援する国内外のベンチャー・ファンド等（アクセラレータ含む）を、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）において認定（認定VC）。
- 認定VCの目利きを活用しつつ、認定VCとNEDOが協調してシード期の研究開発型ベンチャーの事業化支援を開始。

◆研究開発型ベンチャー支援事業

12の認定VC

	国名
Expara Ventures Pte.Ltd.	星
Global Catalyst Partners LLP	米
Triple Ring Technologies	米
株式会社SARR Tech Ranch	日/米
ウエルインベストメント/AZCA	日/米
Beyond Next Ventures	
株式会社東京大学エッジキャピタル (UTEC)	
合同会社ユーグレナSMBC日興リバナスクャピタル	日
株式会社ドリームインキュベーター	
FGC BioVentures LLP	
ハックベンチャーズ株式会社	



14のベンチャー企業のプロジェクトが加速

ウェアラブルランシーバー「BONX」事業
チケイ株式会社

フレキシブルシルク電極
イーアイシルク株式会社

人とロボットの協働最適化と遠隔保守・運用システムの研究開発
株式会社未来機械

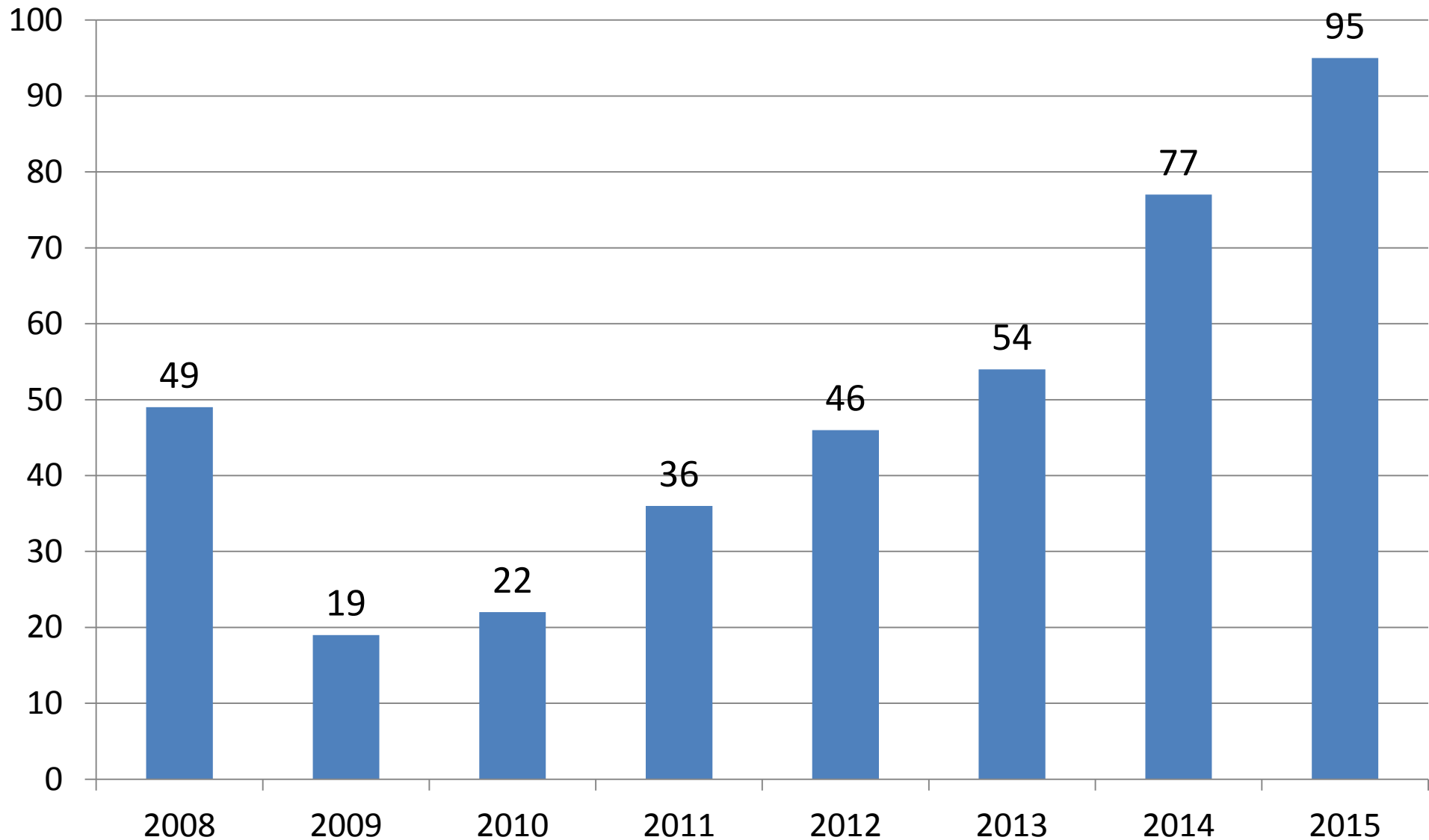
他、11プロジェクト

助成



活発化するベンチャーの活動（IPO市場の回復）

- 以上のような取組の効果もあり、新規上場会社の数は6年連続で増加している。



今後の取組

- バラバラに施策を展開するのではなく、施策を互いに連携させ、育成した人材や企業を政策実行の基盤としながら、ベンチャー企業への切れ目ないリスクマネー供給・ハンズオン支援を実現していく。
- 今後は、当省のみならず文部科学省や総務省などとともに政府一体となって、ベンチャー関連施策の有機的な連携及び強化の方向性を示すロードマップ（ベンチャー・チャレンジ2020（仮称））を早急に策定し、実施体制を整備する予定。

国内ベンチャー育成施策の連動

イノベーターの育成

事業化支援

成長機会の提供

- 始動Next Innovator、未踏 I T 人材の育成
- 研究開発型ベンチャー支援
- 大企業とベンチャー企業の連携（マッチングイベント等）

施策インフラの構築

シリコンバレーをはじめとした世界のベンチャー拠点との連携

2020年に東京で「グローバル・ベンチャーサミット」を開催

V C の育成、既存企業によるオープンイノベーション推進、他省庁施策